

## 町田市相原町における買物/通院のための移動支援の確保について

相原まちづくり協議会 理事 高橋 八州太郎

frontier.y.takahashi@gmail.com

### はじめに

町田市は東京の南端に位置し、半島のように神奈川県に突き出ている。市域のほぼ全域が多摩丘陵に含まれ、市域の平面形は給料の西南部に沿う狭長な形態をしている。

市域の南側に境川が流れており神奈川県との県境も境川に沿っている。そのすぐ脇を横断するように「町田街道」が貫いている。幅 400 から約 1 km 長さ約 7 km と東西に細長く、各谷戸は町田街道から枝分かれした房状の道路に沿って開発されていった。しかも、丘陵地であるため、すぐ坂道が迫っている。幅員も狭く、急こう配の道路バスが入れない道路構造となっているため、高齢化を迎えた今、最後（最初）のワンマイル交通が本当に必要な事態を迎えた。

### 1. 買物移動支援の対策

相原町連合自治会は 11 町会があるが、R16 号より東側にある町会（境町地区）は比較的なだらかでかつ、橋本駅に程近いこともあり、買物移動支援の対策の必要はあまりない。R16 より西側の町会は丘陵地が迫っていたり、丘陵全体が開発されたことにより、買物移動支援の必要性がある。地区でいうと坂下地区、元橋地区、中村地区、陽田地区、丸山団地地区である。また、平地であるが、近くに立地していた食料品店の退去により、遠くの店舗まで買い物に行かなければならない事態に陥った地区もある。武蔵岡団地地区（960 世帯）である。

そんな中、相原駅前の大戸踏切のアンダーパス工事が進む中、撤退した中堅スーパーの後に同様な中堅スーパーの建設工事が始まり、2027 年 3 月のオープンが発表となった。

また、武蔵岡団地地区では、今年 2 月下旬に公社ハイムの 1 階に今まで空き家になっていた店舗に「食品中心」の中堅スーパーがオープンすることが決まっている。このことにより、武蔵岡団地地区での買物移動支援は少し緩和することが予想される。

また、丘陵地全体を住宅団地（戸建て）である、相原団地地区では駅に近いことから、移動支援への要請はまだ具体化しては無いが、高齢化の波はあるので近いうちに買物移動支援の手を差し伸べる必要性が出てくるように思われる。

同様に丘陵地全体を開発した「丸山団地」は急峻な坂が多く、2018 年に「相原シャトル丸山団地号」として移動支援の社会実験まで行った事案がある。が、現在のところそれ以上の進展はないが、今後、大戸踏切近くに出店する中堅スーパーへの買物移動支援サービスの話が沸いてきそうな雰囲気である。

### 2. 通院移動支援の対策

相原町地域に、いわゆる総合病院なる機能の医療施設が以前から立地していないため、住民の間からは医療施設の設置を地元出身の議員を通じて何度となく要望してきたが、その都度空振りに合ってきた。逆に、介護施設は結構多く立地されてきた。やはり、地価が街中と比較して低いことが

要因と思われる。そんな中でも R16 沿いに総合病院の建設の話が現実味を帯びてきているが、それとて 4, 5 年でできるものではなく、医療施設への通院移動支援は喫緊の問題となっている。

### 3. 移動支援を含む共助の再検討

買物移動支援や通院移動支援のために、どのような仕組みでやればいいのか、相原町会では議論がなされ、「地区社会協議会」を立ち上げようということになり、数年かけて相原地区社会協議会を立ち上げた。その中で「人材バンク」機能をつくり、それに登録していくこととした。

ワークショップを行い、「自分はこれができる」、「私はこれならできる」等、できることを多く挙げてもらいました。

ちょっとした電球の交換やら、TV や冷蔵庫等の移動等、いわゆる「何でも屋」的なことも将来的には考えていこうという雰囲気があった。しかし、現実的に考えていくと、その中で「車」の運転で貢献したいという方が多くいたことから、移動支援をスタートさせた。自分の車で、保険もきちんと加入していることが条件であるが、現在ドライバーが 7 名、登録者制度を取っており、約 200 名の方が登録されており、年間利用者数は 1,200 人となっている。今後、利用者の益々の増加に対し、それを下支えするドライバー（協力者）の確保は喫緊の課題である。現状のドライバーは大半が 70 代中盤から後半である。

相原地区には、地区社会協議会のほかに、まちづくりを中心に活動を進めるために、「相原まちづくり協議会」が組織されており、今までも街を賑やかにするための活動を進めてきております。相原駅前の朝市の開催や、スポーツカルタ大会など町を盛り上げる活動を推し進めることをやってきましたが、今後は、街の地域資源の周知・学習を通して、「相原町」の愛着度を上げるべく活動を起こし、もって人の心の醸成を図り、移動支援を含むボランティア精神の向上に励めればよいと考えております。

### 4. 高齢者支援施設との連携

現在の買物移動支援では、高齢者支援施設のバス（車両）や運転手の無償提供が元となっている状態があって成り立っている。そこで、何カ所かある高齢者支援施設の送迎を、一本化し、その中に買物移動支援、通院移動支援を含めてやれないか検討を進めようとしている。今まで調べた中で、富山県の黒部市の社会協議会が進めている移動支援プロジェクトを参考にして構築することを検討中である。

### おわりに

今のままでは後 5 年もすると、ドライバーも 80 歳を超えてしまい、尻つぼみになってしまう。まさに限界集落の域に入っていく。幸い、高齢者施設はそれなりに維持されているので、そことうまく連携していくことで、移動支援に限らず、生活の「共助」体制を築ければ、「住みよいまち相原」が定着してくることを期待して毎日を過ごします。